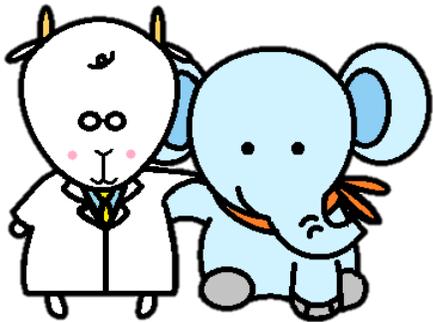


吃音症の支援に役立つ カウンセリング



西明石カウンセリングオフィス



吃音症とは

*発語リズムの障害です。

- ・ある音の発音をためらって出せない（例：・・・ぼくは）
- ・同音（同音節）を繰り返す（例：ぼぼぼぼぼくは・・・）
- ・初音を伸ばす（例：ぼーーーくは）など

⇒会話の流れに乱れが生じる症状



吃音症について

- ▶ 発症年齢は2～7歳の幼児期がほとんどで、男児は女児の2～3倍みられるとされています。
- ▶ メカニズムははっきりと分かっていませんが、育て方の問題ではなく、脳の形態・機能の問題であることが分かってきました。
- ▶ 緊張すると増強することが多いです。
- ▶ 矯正を求めると、無理をして悪循環に陥ることもあります。
- ▶ “喋るとからかわれるかも” という不安を強く抱えています。



症状への対応

◎周りの理解がとても重要

- ・学校や職場では、からかい対策や支援対策の配慮をする
(本人と対応策を話し合う、からかいをやめさせる、話すのに時間がかかっても待つ、話し方のアドバイスをしない、関係者間での情報共有など)
- ・初めての場面は緊張して症状が出現しやすいため、事前に相手に伝えておく方がよいこともある (本人と相談して決める)

個性の1つとして、自然に接することで安心感が得られやすいです



関わりについて

- 言語聴覚士の指導で改善することも多いです。
- 入学試験や公務員試験では合理的配慮がなされるようになっていきます。自身の特性を活かし、自分に合った職業を選ぶことで活躍している人もたくさんいます。
- 発音を訂正したり、繰り返しを求めることは避け、ゆっくりでも楽しく会話ができるように心がけることで安心感が得られます。

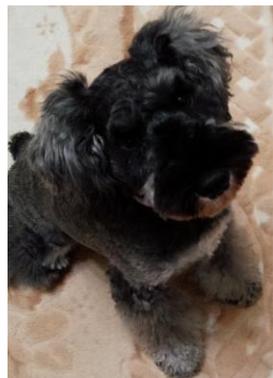
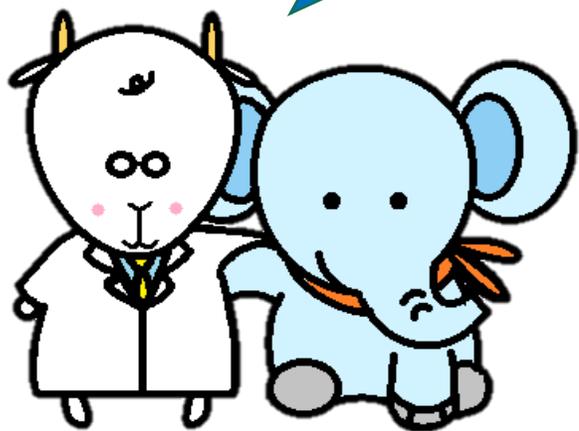


吃音症へのカウンセリング

- ・ご本人のペースで話していただけるよう、ゆっくりとお話をうかがっていきます。
- ・症状に伴う心理的な問題（不安、劣等感等）の軽減を目指します。
- ・話すことに対する不安を減らし、自然な発語や、前向きな自己評価を促していきます。
- ・ストレスを与えないような環境の調整を一緒に考えていきます。
- ・学校や職場での支援や社会的資源の利用など、ご本人と相談しながら合理的配慮についても考えることができます。



シリーズで皆さんの参考になることをお伝えします。



次回は
チックについて

